

愛媛県新第二別館官民共創拠点整備  
基本計画書

# 目次

## 1. 基本方針

- 1-1. コンセプト
- 1-2. 施設の役割と目的
- 1-3. 共創のコンセプト

## 2. 共創を促す施策

- 2-1. 空間計画(ゾーニング・機能・デザイン・仕器・ICT)
- 2-2. 共創を促すデジタルの仕掛け

# 1.基本方針

---

## 1-1.コンセプト

愛媛県では、これまで、県内のデジタル実装を強力に推進してきたところであるが、県内企業の稼ぐ力の向上による地域経済の活性化等に向け、スタートアップの創出やDX関連企業の誘致を加速させるなど、取組みの強化が必要。

そのためには、「先進的な技術等を有する企業」から「愛媛県」に対する事業提案というスタイルのみでなく、地域課題の解決に向けた

### 「共創」の考え方や、仕組みの導入が必要

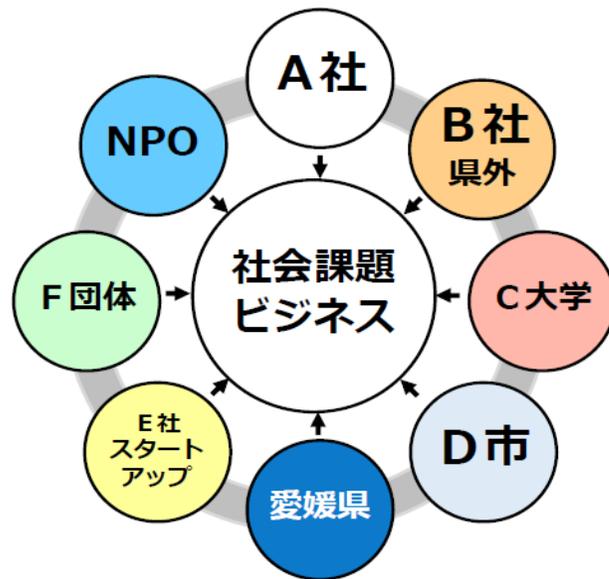
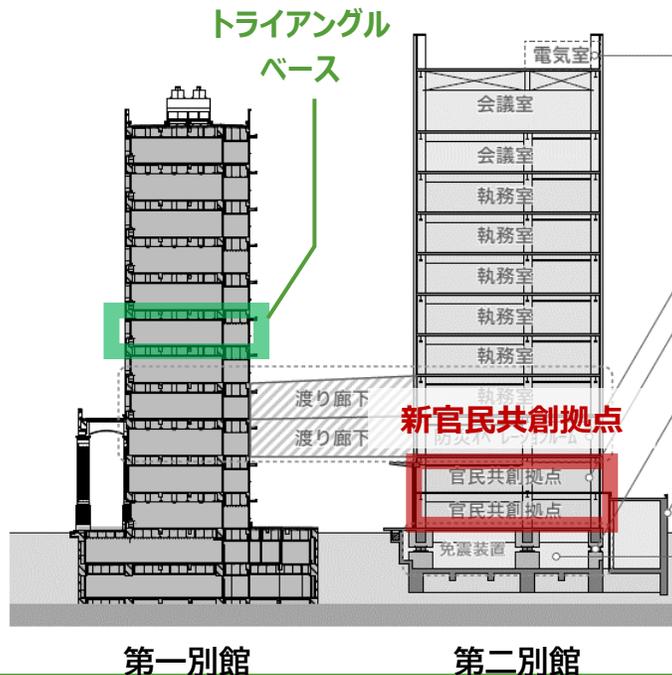
である。なぜなら、

- ①マーケットが成熟し、価値観等が多様化する時代において、
  - ・企業と多くの利害関係者(県内外企業、県・市・町(所管部署)、県民(消費者)等) が連携して、多角的な視点での新たな価値創造が必須
  - ・そのためには、多くの対話を通じて多様なつながりを生む「共創」が重要
- ②「共創」においては、県も地域課題解決に取り組むメンバーのひとり
  - ・常にオープンで、対話が生まれやすい施設や組織運営が重要

# 1-1.コンセプト

- 官民共創拠点の基本コンセプトは「3C」
- 官民共創により、「地域課題解決」と「新ビジネス創造」を実現する

第二別館	1F	出会う・繋がる (Connect)	県内外の産学官金が出会い、繋がる場
	2F	学ぶ・育む (Cultivate)	出会った事業者や県職員が地域課題の解決を牽引し、学びながら共に成長する場
第一別館	6F	挑む・拓く (Challenge)	県内へのデジタル実装および技術・事業の定着と価値創造が行われる場



・官民が共創して、  
地域課題を一緒に解決！  
・「施設のハブ機能を担う人材」  
の存在が、共創を促進させる！

# 1-2.施設の役割と目的

## <担当組織と主なプログラム>

## <施設の役割と目的>

**デジタル戦略局**

### デジタル実装「TRY ANGLE EHIME」

愛媛県では、右記3つの観点から、デジタル・ソリューションと関連技術 (AI, IoT, ロボティクス etc...) を愛媛県内事業者・自治体等に実装し、地域課題の解決にチャレンジするトライアングルエヒメ推進事業「デジタル実装加速化プロジェクト」を令和4年度スタート。県内外各所からの反響を受け、令和5年度はさらに規模を拡大して取り組みました。デジタル実装を推し進め、各種産業のモデル事業者が取得したデータを有効活用し、ナレッジ共有会・勉強会の開催等を通じ、事業者同士が互いに切磋琢磨し、共に高めていく動きが、県内各地・各種産業分野で広がっています。より高いレベルでの「人と人とのつながりをデジタルが変える社会」の実現を目指し令和6年度はさらに進化して参ります。

**経済労働部**

### 創業支援「愛媛グローバル・フロンティア・プログラム」

愛媛県では、新たなビジネスを生み出すスタートアップの創出や県内での創業をオール愛媛でサポートする「愛媛グローバル・フロンティア・プログラム」(EGFプログラム)を推進しています。

**第一別館**

### 6F: 挑む・拓く(Challenge)

県内への**デジタル実装**および技術・事業の定着と価値創造が行われる場

**第二別館**

### 2F: 学ぶ・育む(Cultivate)

出会った事業者や県職員が地域課題の解決を牽引し、学びながら共に成長する場

### 1F: 出会う・繋がる(Connect)

県内外の産学官金が出会い、繋がる場

トライアングルベース  
(官民共創拠点の先行モデル)  
「デジタル実装」



- ①「事業の創出と成長」
- ②「社会課題の解決」  
(地域課題を含む)



より多くの人や企業が  
集まり・繋がることによる  
「機会やシナジーの創出」

デジタル実装  
+  
創業支援

## 1-3.共創のコンセプト

# 再発見

- ・愛媛の強み・価値の再発見
- ・愛媛の課題の再発見
- ・第一次産業の魅力・課題 等

×

# 新結合

- ・課題とソリューション
- ・アイデアとビジネス
- ・第一次産業とデジタル 等



<共創施設の基本コンセプト>

## 3C

Connect  
Cultivate  
Challenge



<共創施設の機能コンセプト>

## ECP

Experience(交流、学び)  
Creation(共創、創業)  
Promotion(発信、PR)

## 2.共創を促す施策

---

## 2.共創(再発見・新結合)を促す施策

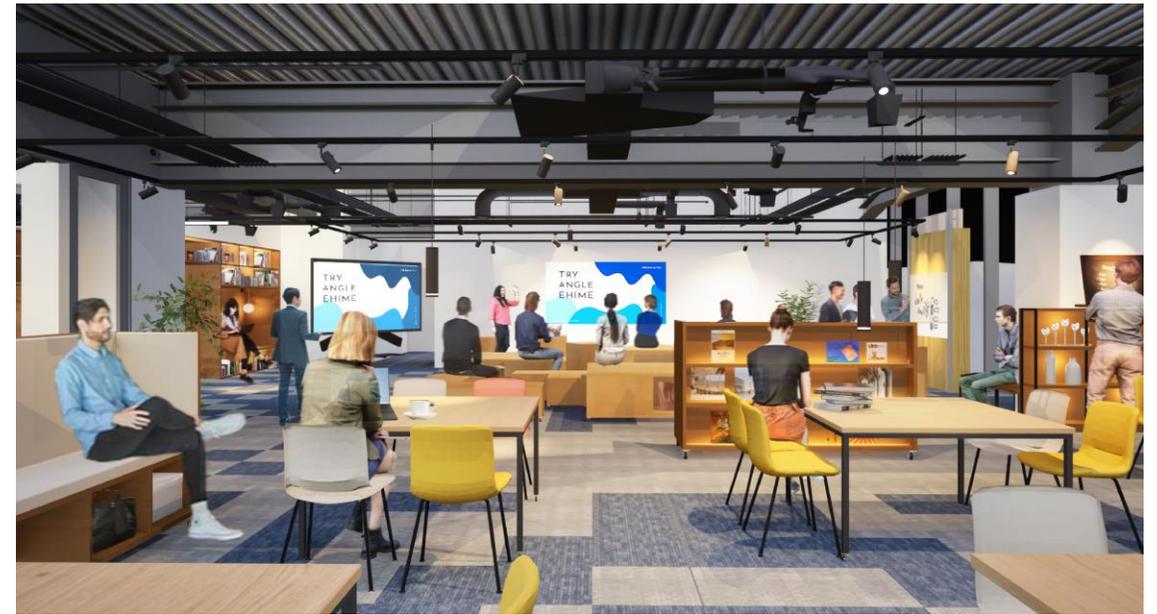
空間計画	<ul style="list-style-type: none"><li>・愛媛の郷土を感じられるカラーや、県の特産品・県産材を使用した什器・内装材の採用</li><li>・将来における運営の変容に対応するフレキシブル性 (可動什器・間仕切りの少ないオープン空間)</li><li>・共創を誘発する活動エリアの分散配置および視認</li></ul>
運営計画	<ul style="list-style-type: none"><li>・共創拠点のエコシステムの検討</li><li>・運営する組織体制と運営イメージ案</li></ul>
共創を促す デジタルの仕掛け	<ul style="list-style-type: none"><li>・最新の通信技術等を活用した他機関との連携の将来イメージ</li><li>・最新技術を活用した生成AIの普及/ベンチャー創出支援</li><li>・来訪者の感性を刺激する映像等のコンテンツ体験</li></ul>

## 2-1.空間計画

---

## 本施設の特徴

- 愛媛の郷土を感じられるカラーや、県の特産品・県産材を使用した什器・内装材の採用
- 将来における運営の変容に対応するフレキシブル性(可動什器・間仕切りの少ないオープン空間)
- 共創を誘発する活動エリアの分散配置および視認性



# 各階ゾーニング

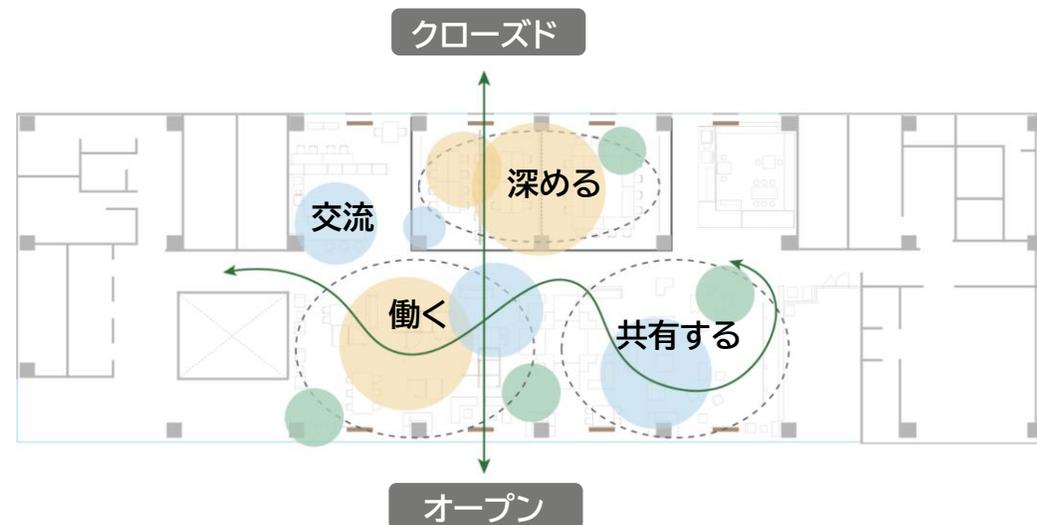
**E**xperience **C**reation **P**romotion それぞれの活動を分散配置し、同時多発的な活動が共創を誘発

～親しみのある「愛媛らしさ」を表現し 人びとが集まり 交流が生まれる空間づくり～

## 2F 学ぶ・育む(Cultivate)

より深い交流と発見から共創の種を育む場

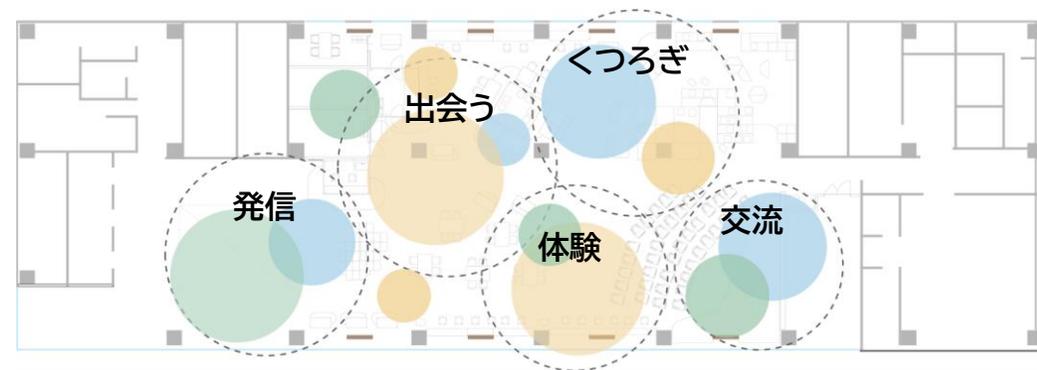
議論を深め共有するための空間としてオープンな空間だけでなく、クローズドな個室や試作・試食などにも利用できるキッチンを設置することで、県職員・会員同士のコミュニケーションを誘発、よりクローズドなコミュニティでのイベントにも対応。



## 1F 出会う・繋がる(Connect)

気軽に立ち寄れる公園のように 人と人との出会いを生む場

新しいことに出会い、地域の価値や事業を発信できる空間として、出会いのきっかけづくりとなる受付やカフェ、情報発信可能なステージ・展示空間を具備。くつろげる空間やBGM・カフェも併設することにより、人々の偶発的なコミュニケーションを促し、創造力を掻き立てることで共創に寄与する。



# 1F 出会う・繋がる(Connect)

気軽に立ち寄れる公園のように、人と人との出会いを生む場  
新しいことに会い、地域の価値や事業を発信できる空間をご提案します



## だんだん畑

階段状の座席はイベント時にはステージを眺める客席になる

## 受付/カフェ

受付を行った後、カフェは滞在できる空間として配置



## 施設サイン

みかん箱を活用し、水引をイメージした施設サインで来館者を迎える



## カラー

内装や什器は愛媛の郷土の色を採用  
天井は高さを感じられるグレー



## イベントスペース

イベント時にはステージや展示空間として利用



## 愛媛県らしさ

什器や内装材には愛媛の県産材などを活用



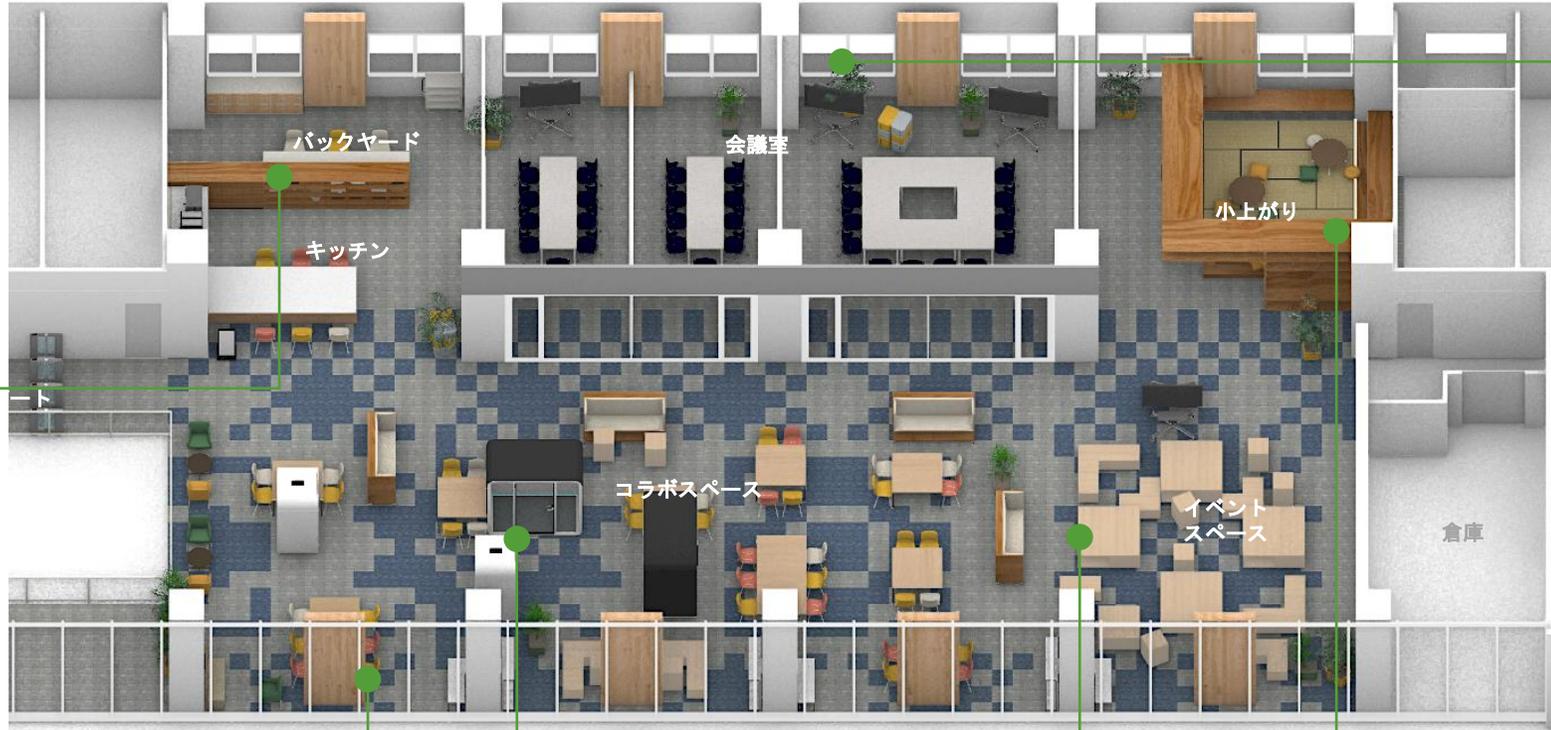
県産木材 みかん箱 菊間瓦



砥部焼 水引き 今治タオル

# 2F 学ぶ・育む(Cultivate)

より深い交流と発見から共創の種を育む場  
多様なバックグラウンドの人々が集まることで思いがけない発見を生む空間をご提案します



## キッチンとバックヤード

利用者の交流を誘発する  
オープンなキッチンと  
職員のためのバックヤード



## 会議室

モニターやスピーカーを  
備えた会議室

## 愛媛県らしさ

伊予絨をモチーフに  
デザインを検討



愛媛の郷土の色に加  
え、アクセントカラー  
を採用



## 窓辺スペース

ミニテーブルやガラス製のホワイトボード  
が来館者のクリエイションを促す



## コラボスペース

フロンツで緩やかに区切られた  
明るく開放的なオープンスペース



## イベントスペース

可動できる家具で様々なイベント  
に対応

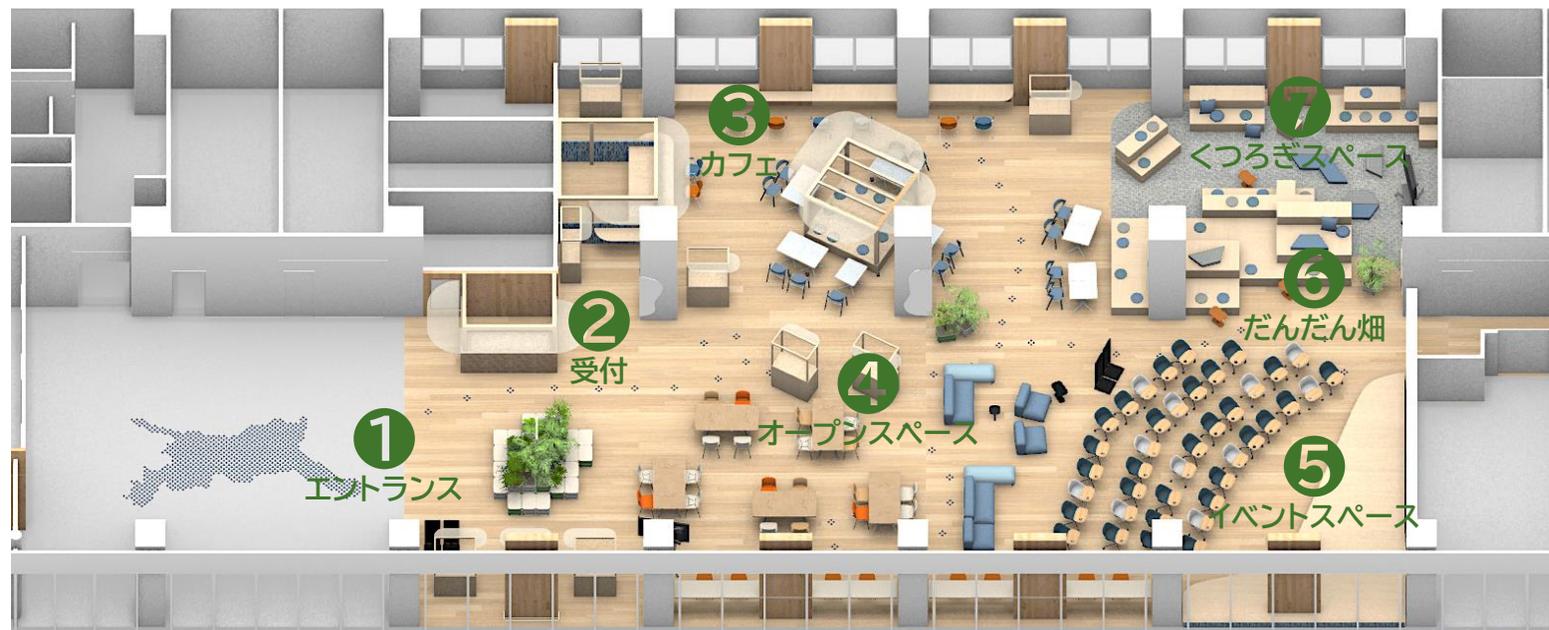


## 小上がり

隠れた空間で密な  
コミュニケーションが可能



# 必要機能詳細(1F)



名称	① エントランス	② 受付	③ カフェ	④ オープンスペース	⑤ イベントスペース	⑥ だんだん畑	⑦ くつろぎスペース
機能	<ul style="list-style-type: none"> <li>施設名称サイン</li> <li>可動式サイネージ(案内)</li> <li>みかんコンテナのベンチ</li> <li>植栽ボックス</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>入退館の確認</li> <li>貸出アイテムの管理</li> <li>利用説明</li> <li>イベント案内</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>カフェカウンター</li> <li>厨房・食品庫</li> <li>櫓型の小上がりスペース</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>可動式什器</li> <li>可動式サイネージ</li> <li>可動式バッテリー</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ステージ</li> <li>大型LEDビジョン</li> <li>マイク音響設備、照明</li> <li>コンテンツの投影</li> <li>最大客席150席 (他スペース合わせ拡張可能)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>可動式の階段状什器</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>可動式の階段状什器</li> <li>タイルカーペット</li> </ul>
目的	<ul style="list-style-type: none"> <li>愛媛県らしさを取り入れた施設サインで利用者を迎える</li> <li>ICT技術を活用した情報発信</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>施設目的の共有</li> <li>利用者の情報を管理する</li> <li>コミュニケーターとの接触の場をつくる</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>食を介したコミュニケーション</li> <li>県職員が施設に来るきっかけ作り</li> <li>オフィスではなくカフェにいる感覚</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>来館者が気軽に使える</li> <li>日常使いもイベント利用にも対応可能なフレキシブルな空間</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>PRやイベント開催可能</li> <li>施設にあったコンテンツに気軽に触れてもらう</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>施設内を広く見渡すことができる</li> <li>日常使いもイベント利用にも対応可能なフレキシブルな空間</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>床座のようなくつろげる空間をつくる</li> <li>少し奥まった環境でリラックスして会話ができる</li> </ul>
効果	<ul style="list-style-type: none"> <li>利用者呼び込む</li> <li>最新情報と愛媛の魅力を感じることができる</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>参加者が施設内での活動をイメージできる(必要な人材像となる)</li> <li>来館者に合わせたイベント・コンテンツの紹介、マッチングができる</li> <li>コミュニケーターに相談しやすくなる</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>施設利用者同士の会話の活性</li> <li>県職員と施設利用者のコミュニケーション機会の創出</li> <li>施設利用者のマインドチェンジ</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>気軽に参加者同士が集い、意見交換ができる</li> <li>使い方に応じて空間を変容させられる</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>施設内で高機能なプレゼンテーション、特別間のあるイベントを実現</li> <li>1F角に位置することでフロア全体を活用したイベント開催が可能</li> <li>施設情報・コンテンツ等が無意識に目に入る</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>施設内での活動が感じられる</li> <li>イベントに参加していなくても観客になれる</li> <li>使い方に応じて空間を変容させられる</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>少人数でのワークショップやプレゼンで利用できる</li> <li>心理的ハードルが少ない</li> </ul>

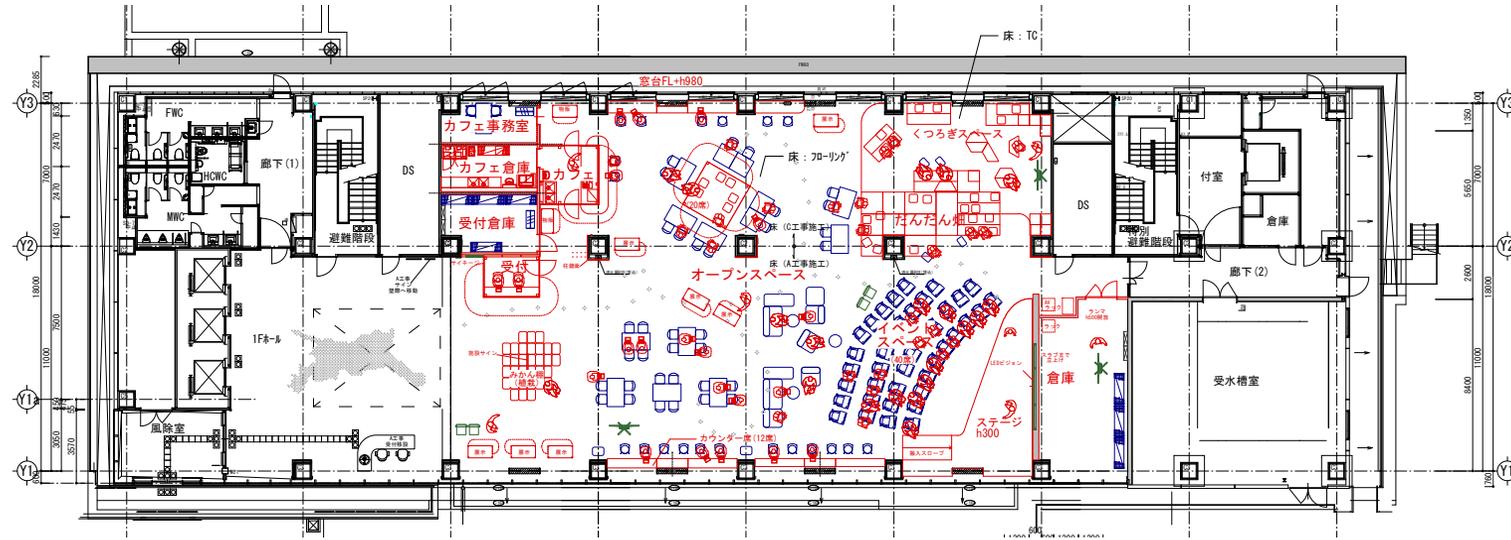
# 必要機能詳細(2F)



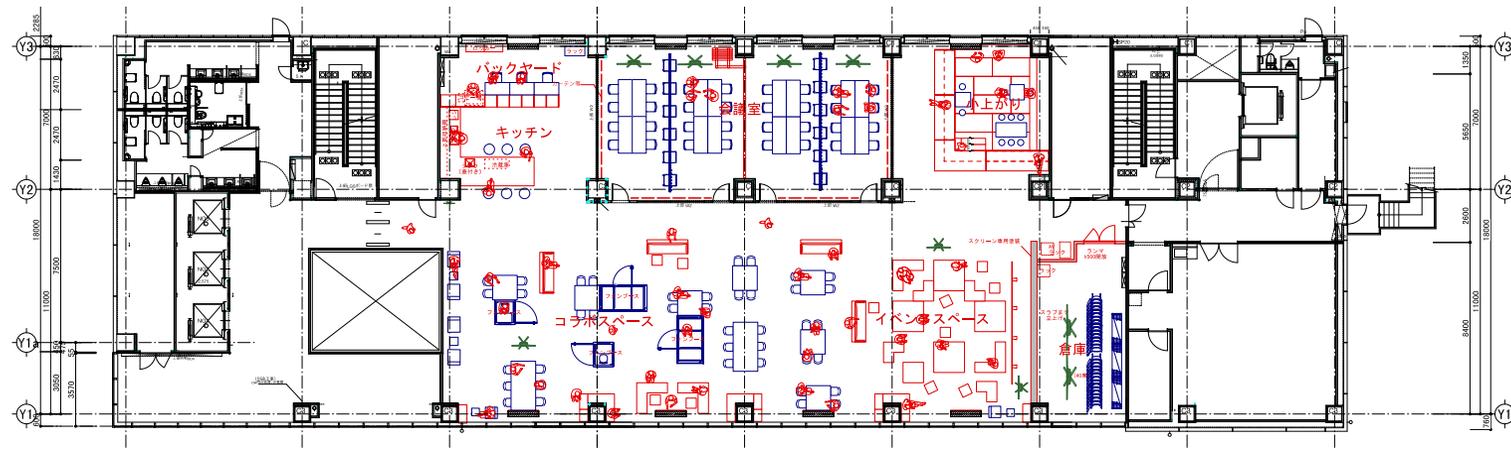
名称	①コラボスペース	②イベントスペース	③小上がり	④会議室	⑤バックヤード	⑥キッチン	⑦テレブース
機能	<ul style="list-style-type: none"> <li>ベンチ</li> <li>打合せ用モニター</li> <li>可動式バッテリー</li> <li>ホワイトボード</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>スクリーン</li> <li>マイク音響設備</li> <li>可動式什器</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>下足を脱ぐ床座スペース</li> <li>クッション、テーブル</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>打合せ室×4</li> <li>パーティション</li> <li>マイク音響設備</li> <li>ホワイトボード</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>執務スペース</li> <li>施設の運営管理</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>キッチンカウンター</li> <li>調理カウンター</li> <li>簡易調理器具</li> <li>冷蔵庫</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>個室ブース (1人用×2、2人用×2)</li> </ul>
目的	<ul style="list-style-type: none"> <li>県職員・会員同士が共創し、新たな発想を生み出す場をつくる</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>1Fに比べてよりクローズドなコミュニティでの発表が可能な場をつくる</li> <li>大小様々な規模のイベントにフレキシブルに対応できる場をつくる</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>小上がりにして空間領域を明確にする(ゆるやかに区切る)</li> <li>リラックスできる空間をつくる</li> <li>アイデア創出のため普段の執務環境とは異なる環境とする</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>周囲を気にせず打合せ可能</li> <li>オープン環境では実施しづらい撮影・Web会議等が可能</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>県職員用のセキュリティが高い空間をつくる</li> <li>県職員が会員同士とコミュニケーションをとりやすい空間をつくる</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>食を介したコミュニケーションの場をつくる</li> <li>調理イベントが開催可能な場をつくる</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>WEB会議や集中作業が可能な場をつくる</li> </ul>
効果	<ul style="list-style-type: none"> <li>民間、行政を超えたコミュニケーションを促進することができる</li> <li>1階よりもより密度の濃い会話ができる(セキュリティあるため)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>より密度の濃い発表が可能</li> <li>利用方法にあわせた空間づくりが可能</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ナップやリラックス空間として活用できる</li> <li>靴を脱ぐことで親密さが増す</li> <li>一体感がでる</li> <li>柔軟な考え方や新しい発想やアイデアが生まれやすくなる</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>機密事項を話すことができる</li> <li>参加人数に応じて会議室規模を調整可能</li> <li>オープン環境より音の影響を受けづらい</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>機密性の高い業務ができる</li> <li>施設利用者と気軽にコミュニケーションをとることができる</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>県職員、会員同士のコミュニケーションを誘発することができる</li> <li>県産材を活用したイベントを実施することができる</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>館内の運用状況によって音環境に配慮した使用ができる</li> <li>壁面を活用してプロジェクターを用いることができる</li> </ul>

# 施設利用イメージ(想定利用人員)

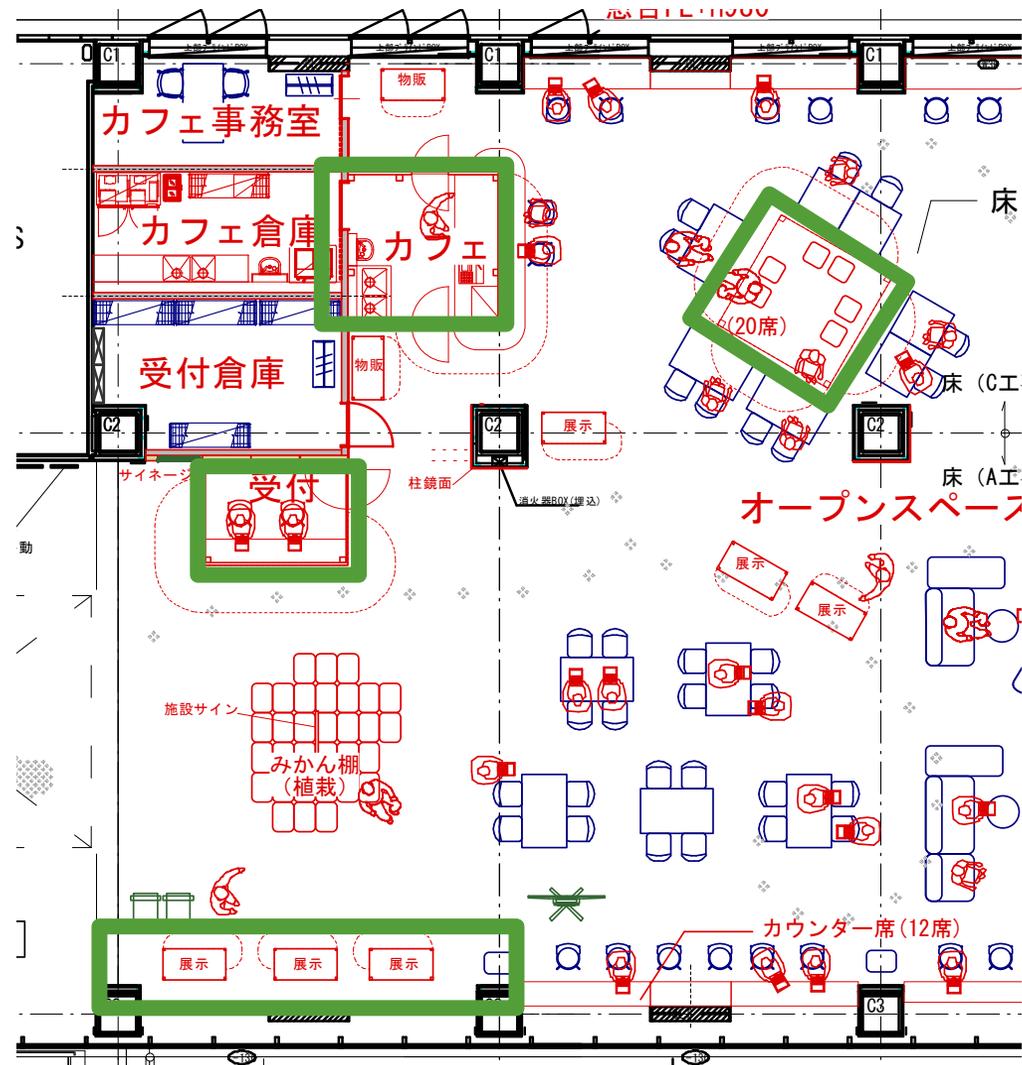
## 1F平均人員イメージ(座席に対して50%・60~70人程度)



## 2F平均人員イメージ(座席に対して50%・60~70人程度)



# 1F : 移動式屋台/小上がり

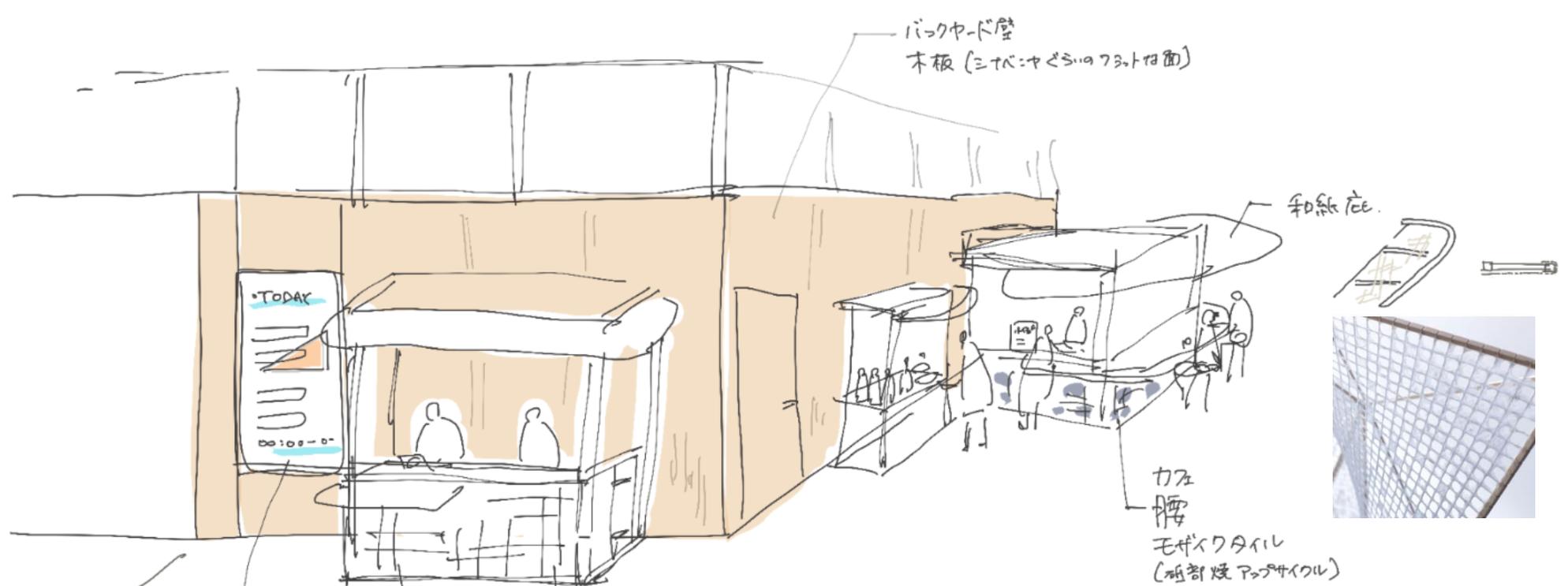
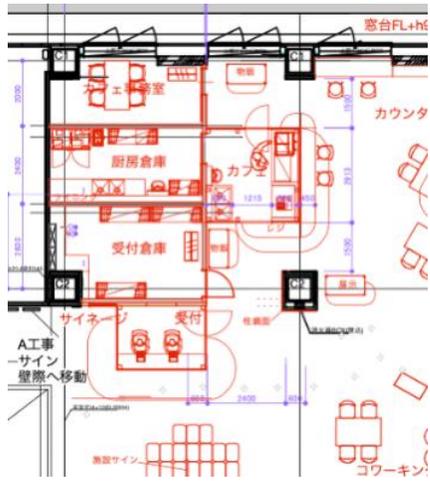


カフェと受付を分離  
それぞれを小屋のように  
小上がりのデザインと統一性を出す

小上がり  
展示屋台  
受付  
カフェ

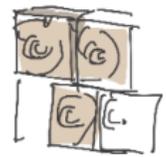
を木造屋台のように同じデザインとする





ガレージ イベント情報

受付 インフォメーション 木和 タイル



木 フロアリング

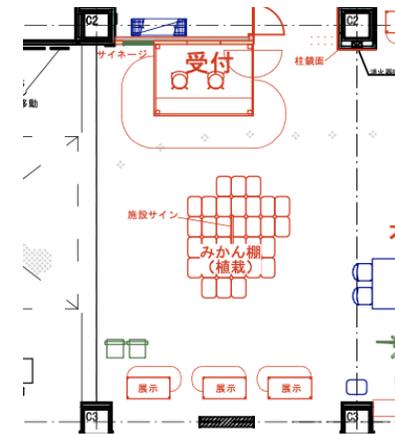




柱に鏡面アルミと  
サイングラフィックを組み合わせる

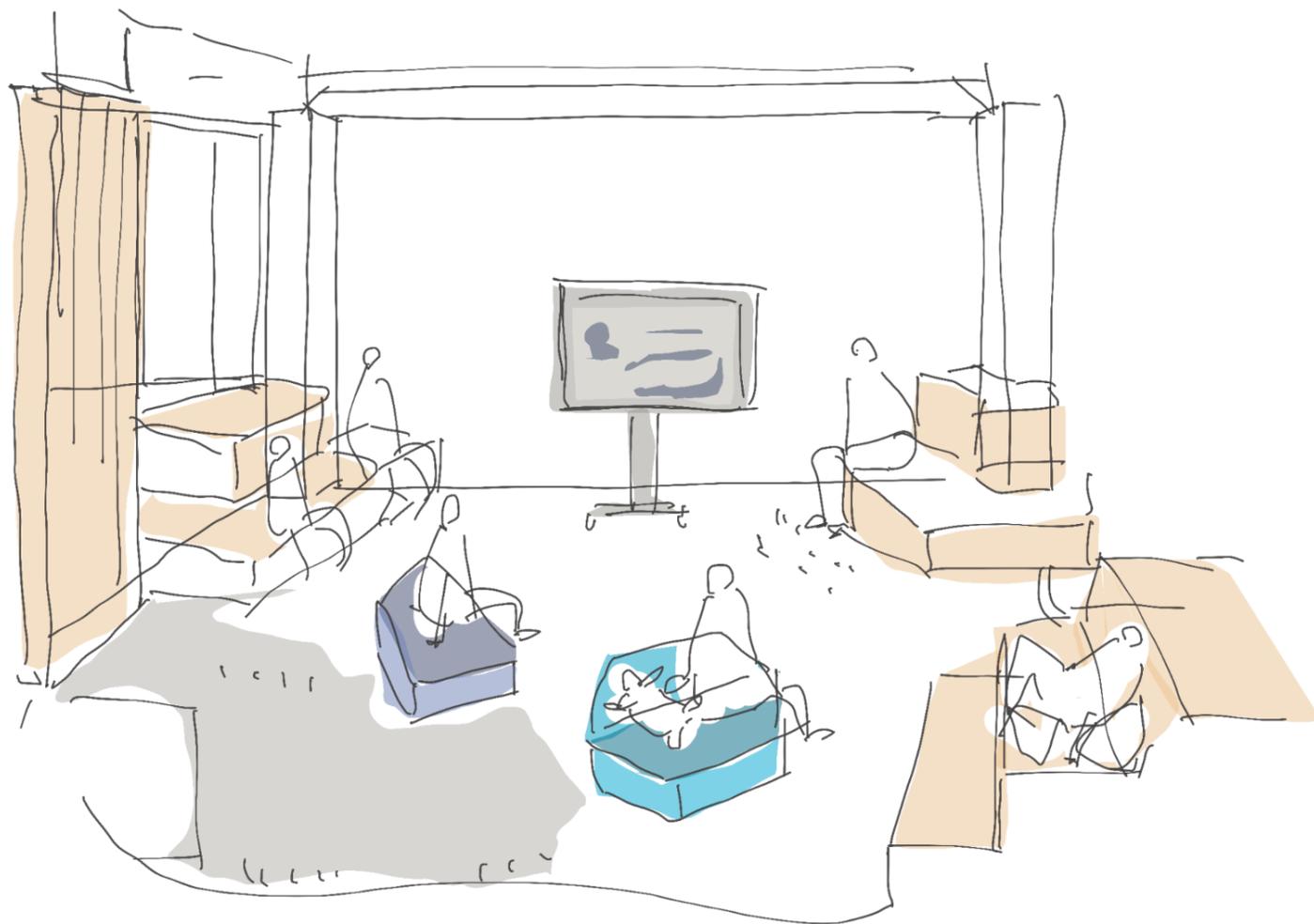
写り込む風景が空間に変化を与えると共に  
「事業化」に必要な客観性をプラス





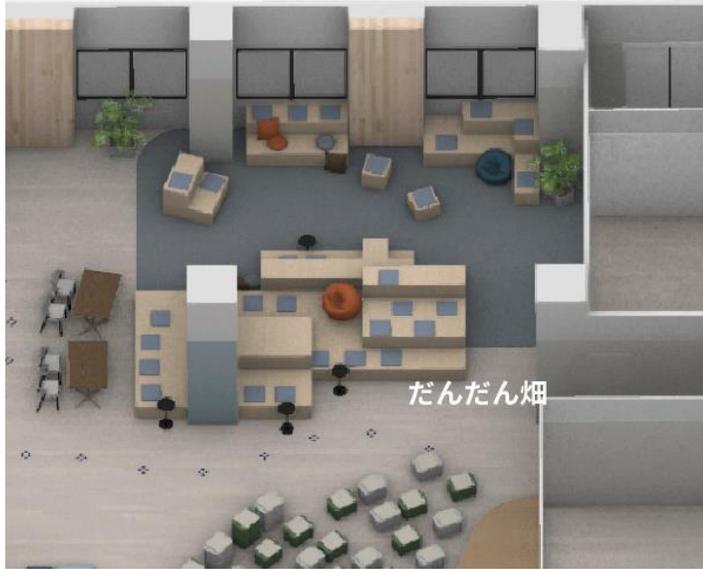
施設名称候補 : TRY ANGLE BASE+

元々活用されているBASEを拡張した意図を表現する+ (プラス) を追加  
(※現時点での案のため変更あり)



だんだん畑の奥は、ふかふかのタイルカーペットに  
組み合わせが可能な多角形のクッション。  
靴は脱がないが、床に近い場所でくつろぎながら、小さな単位のプレゼンができる

# 1F : くつろぎスペース&だんだん畑

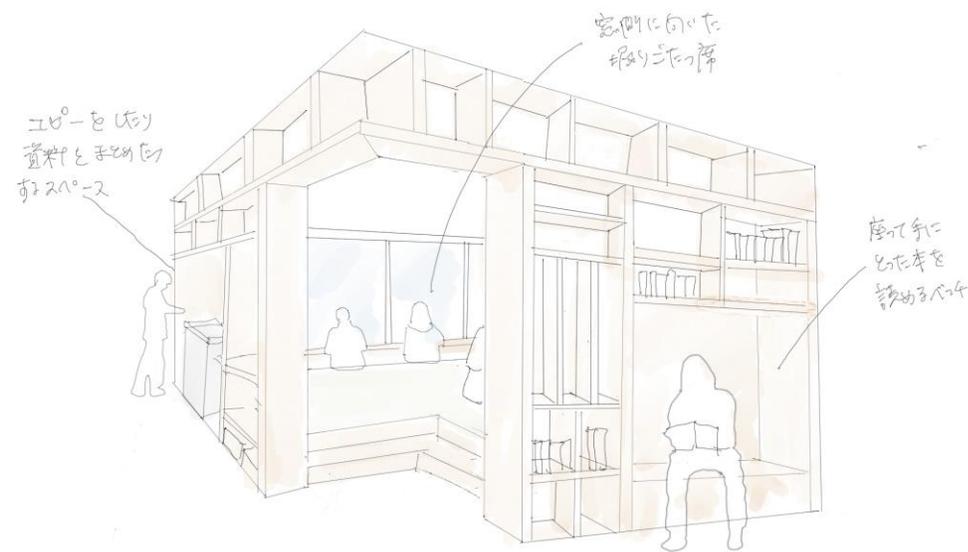
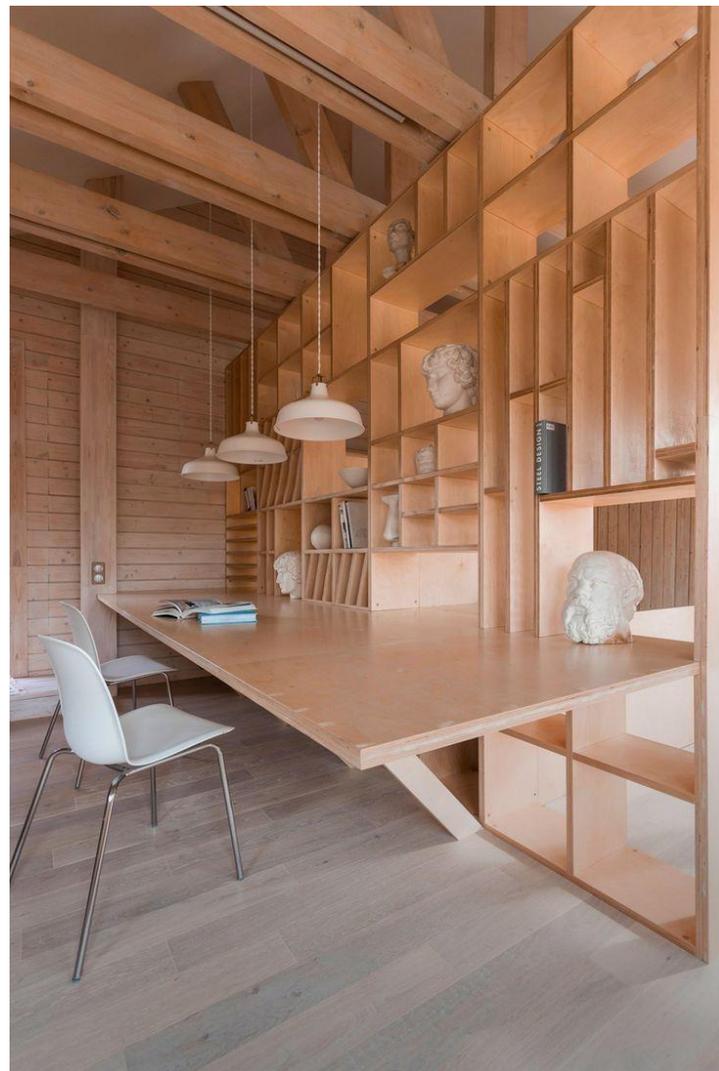


## Steps

[ステップス]

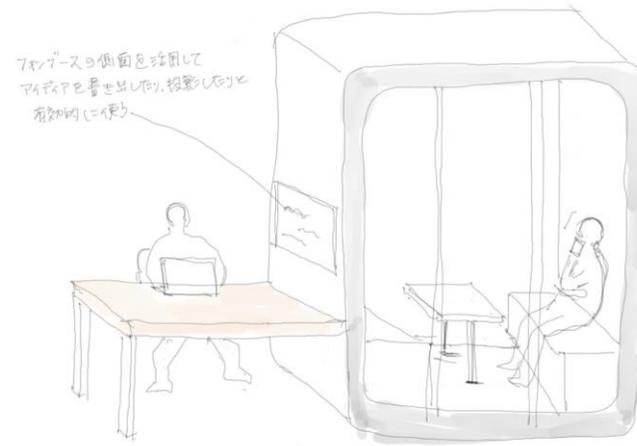
Designer : David Rockwell





周りから囲われた小上がり  
棚の間から少し中の様子が透けて見える

## 2F : 空間イメージ



フロンブースで緩やかに領域をつくとともにフロンブースの側面もアイデアウォールとして付箋を貼ったりアイデアの共有が可能

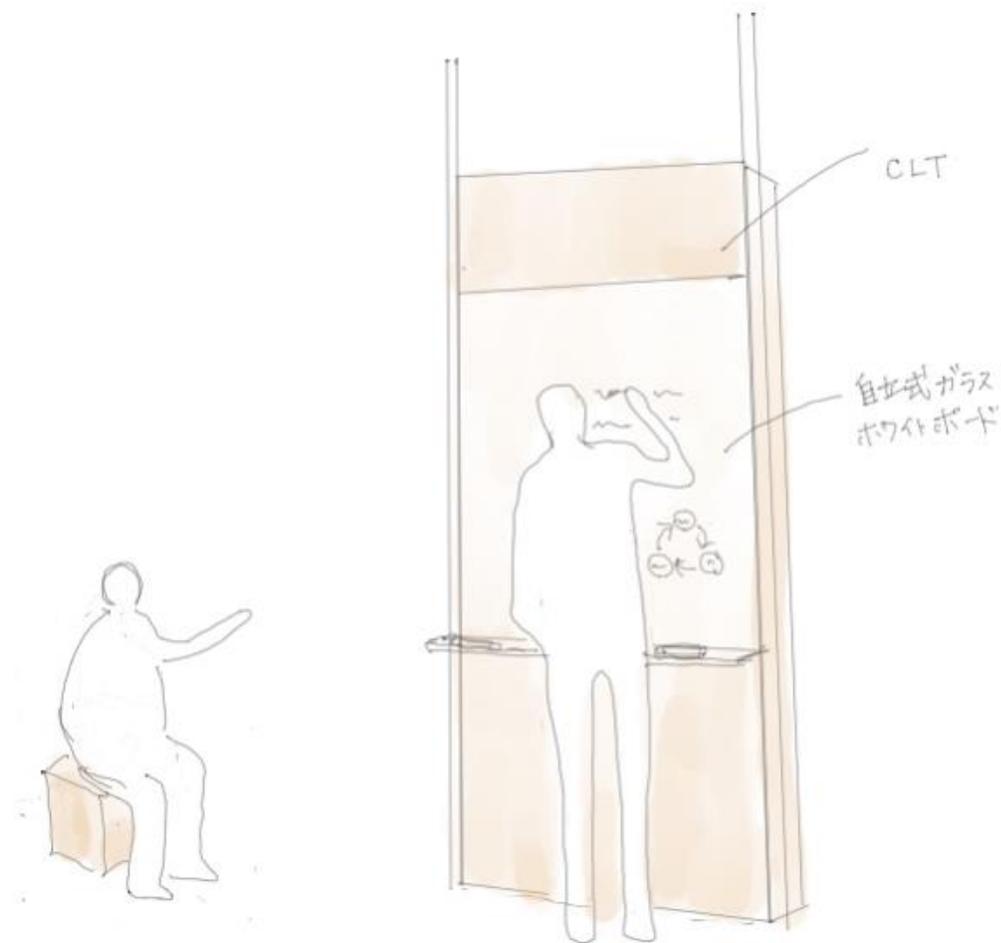


ゆるやかに空間を仕切る家具  
片側は本やチラシなどが置ける棚、反対側は背もたれの高いベンチになっている





CLTボードの前に自立式のガラスホワイトボードを設置し、カジュアルに打ち合わせをしたりアイデアをシェアできる場所をつくる



# 1F什器計画

✓ それぞれのエリアで設定する行動に合わせて利用しやすい什器を採用する

## 受付・エントランスエリア

- 施設サインを組み込める什器を採用

## カフェエリア

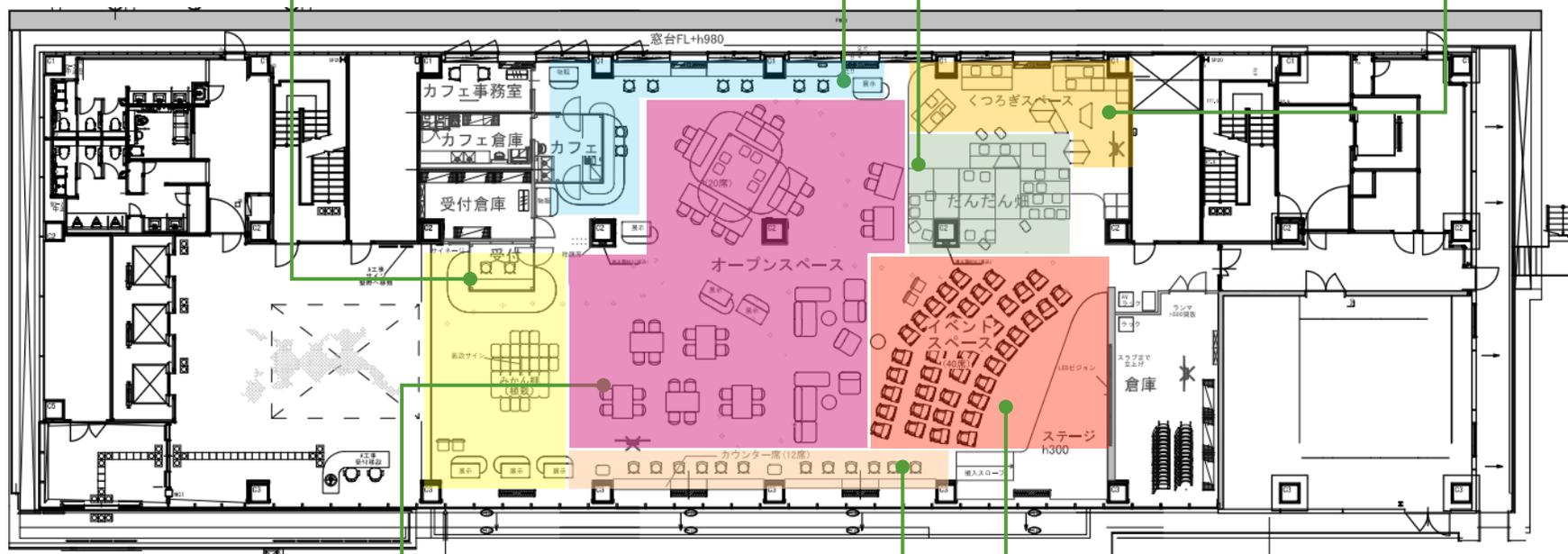
- 飲食にも打合せにも利用できる什器を採用

## だんだん畑エリア

- だんだん畑からイベントに参加したり、簡易作業(PC利用等)が可能な可動式の什器・小物を採用

## くつろぎスペースエリア

- リラックスしてリフレッシュしたり開催するイベントによっては子供との休憩に利用できる什器を採用



## オープンスペースエリア

- 通常時は打合せ等で利用しやすいテーブル・チェアを採用

## オープンスペースエリア (カウンターエリア)

- 窓際で2人での軽いコミュニケーション、個人での作業ができるテーブルと、カウンター下に収まる軽やかな什器を採用

## イベントスペースエリア

- チェア・テーブル一体型でイベントに合わせて自由に配置、活用できる什器を採用
- イベントスペースとコワーキングスペースの間に可動式のソファで中間的な領域をつくり、動きに連続性を持たせる
- バックヤードにはスタッキング効率の良い什器を採用

# 2F什器計画

✓ それぞれのエリアで設定する行動に合わせて利用しやすい什器を採用する

## キッチンエリア

- カウンターなどを設置し気軽にコミュニケーションが取れるような什器を採用

## バックヤードエリア

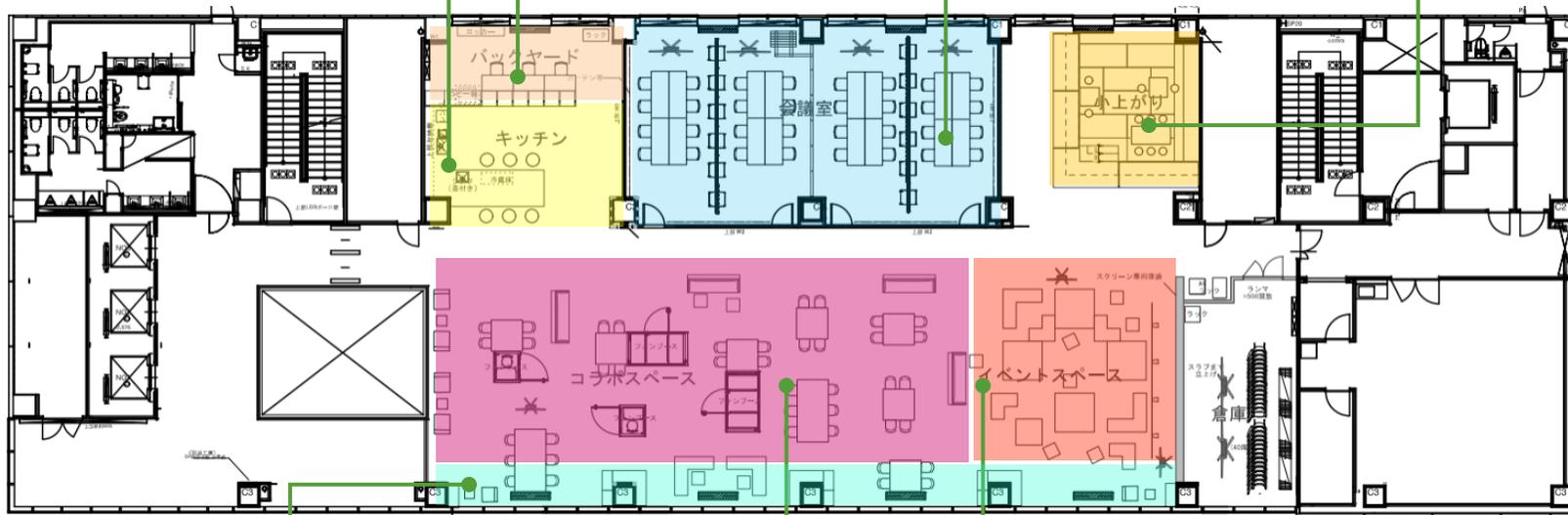
- 打合せや職員が執務が可能な什器を採用

## 会議室エリア

- 来賓対応や会議が可能な空間として人数に応じて可変しやすい什器を採用

## 小上がりエリア

- ナップやリラックス空間として活用できる什器を採用



## 窓辺スペースエリア

- 気軽に打ち合わせや立ち話ができる什器を採用

## コラボスペースエリア

- 打合せ等で利用しやすいデスク・チェアを採用
- 集中作業やWEB会議も実施可能な計画とする

## イベントスペースエリア

- イベントでの利用を想定し可動しやすい什器とする
- 愛媛を想起させる什器とする(伊予家具)
- バックヤードにはスタッキング効率の良い什器を具備

# 施設運営のベースとなるICT設備

## 1.映像・音響システム

1階

2階

- LEDビジョン  
約190インチ：  
幅4,200mm/高さ2,362mm  
屋内用の高精細大型LEDビジョン、  
明るさ、コントラストを活かし、  
広い空間での大人数のイベントでの  
空間演出を実現。
- エントランス用壁付モニター(受付横) 65型想定
- テレプレゼンスシステム ※1F、2F、各1台
- AVミキサー  
リアルイベント、オンラインイベントの両方のニーズに対応するAV機器  
サブモニターにも映像を表示するイベント環境を実現
- メインスピーカー／サブスピーカー／BGM用スピーカー  
オーディオ機能により聞きやすい音環境を実現
- スタンドモニター(可搬式)  
98型、55型を複数台配置  
後方の参加者にも講演内容を同時投影
- PTZカメラ  
登壇者・会場を撮影するためのカメラを整備
- 可搬式デジタルカメラ  
持ち運び可能な可搬式カメラを整備
- 2Fイベント用プロジェクター  
プレゼン資料、映像をスクリーン(壁)に投影

## 2.会議室ICT

2階

- <各会議 個別利用>
- WEB会議用システム  
カメラ・マイク・スピーカー
- スタンドモニター 75型
- サウンドマスキングスピーカー
- <会議室一体利用>
- シーリングマイク
- PTZカメラ(天井吊下げ)
- ミキサー、アンプ、スピーカー

## 4.リアルタイム翻訳ツール

1階

2階

- <受付>  
グローバルなお客様に対応できる窓口用  
デジタルディスプレイ  
・外国人利用者、聴覚障がい者との  
コミュニケーションの実現
- <会議室>  
・対面会議(10名程度)、ハイブリッド会議  
での同時翻訳(20か国以上)  
・会議メモの自動作成

## 3.入退館システム

1階

2階

- 入退館システム  
クラウドサービス利用型を採用し、  
職員のシステム運用管理の負担を軽減
- 主な機能  
・施設利用者のチェックイン、アウトの管理  
→LINEやQRコード連携等による手続き  
・会員情報の管理  
・施設利用状況のデータ出力  
→コミュニケーター、および職員等に  
共創を推進する情報の提供

## 5.ネットワーク

1階

2階

- 利用者向けFree-Wifi環境を整備
- 無線アクセスポイントを配置
- インターネット回線  
1階：2回線(ステージ用、全体用)  
2階：2回線(ステージ用、全体用)  
※庁内LAN-Wifi設備とは切り離し

# 1. 映像・音響システム

大規模イベントに対応し、リアルイベントとオンライン配信のハイブリッド開催を円滑に運営できるようものとする  
高品質な映像・音響環境を提供し、登壇者の映像と資料を最適に表示することで、対面・遠隔双方の参加者にとって  
快適な視聴環境を実現する

## (1) LEDビジョン

- ・ 190インチ相当 4K大型LEDディスプレイ
- ・ 特長:超高精細な4K映像に対応し、大画面で視認性が高いものとする
- ・ 用途:登壇者のプレゼンテーション、映像コンテンツの投影に使用するものとする
- ・ PIXEL PITCH:1.25mm以下
- ・ 輝度:600cd/m<sup>2</sup>
- ・ 水平可視確度:160°以上
- ・ 垂直可視確度:140°以上

## (2) エントランス用壁付モニター:65型相当 (受付横設置)

- ・ 特長:縦型、壁付け、デジタルサイネージ
- ・ 用途:エントランスに設置し、来訪者に対するイベントスケジュール等のコンテンツ投影

## (3) テレプレゼンスシステム(オープンエリア)

- ・ リアルタイムな相互映像配信により、サイネージディスプレイを通して、2拠点以上の遠隔の相手と会話できる機能を有すること

# 1. 映像・音響システム

## (4) AVミキサー

- ・ 特長:ハイブリッドイベントにおける対面とオンライン両方のニーズに対応する映像・音響設備  
ハイブリッドイベントでの映像の配信・収録を実現  
オーディオ機能により、聞きやすい音環境づくりをサポート  
サブディスプレイ・サブスピーカーを設置し、後方からでも見やすく明瞭な音声を提供
- ・ 機能:登壇者映像とプレゼン資料をサブディスプレイを合成し、LEDビジョン表示(サブモニター含む)に対応すること  
外部機器入力対応:プレゼンPC・モバイルデバイス・ドキュメント・カメラ等の映像を簡単に切り替え可能とすること  
Zoom / YouTube Live などのオンライン配信プラットフォーム対応、外部記憶装置(SDカード等)に録画可能とすること  
イベントの記録、アーカイブ配信、ハイライト編集が行えること

## (5) タブレット端末によるリモート操作

- ・ 特長:カメラ・照明・電動スクリーン・AVミキサーの設定をワイヤレス制御可能
- ・ 用途:オペレーターや登壇者がスムーズにイベント進行をサポートする
- ・ 機能:連携するカメラ操作(角度、ZOOM、FOCUS調整等)、映像スイッチなど離れた場所からAVミキサー本体の操作が可能

## (6) メインスピーカーA(天井吊り下げ)

- ・ 特長:高出力・広範囲のカバーが可能で、会場全体に均一な音響を提供可能とすること
- ・ 用途:登壇者の音声やBGMを明瞭に拡張可能とすること

## (7) サブスピーカー(天井吊り下げ、後方補助)

- ・ 特長:後方エリアでもクリアな音質を確保、メインスピーカーの補助として機能すること
- ・ 用途:後方席の音響サポート、イベント会場全体の音の均一化を可能とすること

# 1. 映像・音響システム

## (5) ワイヤレスマイク

- ・ 特長: ノイズキャンセリング機能付きでクリアな音声伝達を実現すること
- ・ 用途: 登壇者・司会者・質疑応答用

## (6) PTZリモートカメラ

- ・ 特長: リモート制御可能なパン・チルト・ズーム機能搭載、スムーズなカメラワークを実現する
- ・ 用途: 登壇者や会場の様子を高画質で撮影し、スクリーンや配信映像に反映する

## (7) スタンドモニター: 98型 可搬式

- ・ 特長: 会場のどこからでも資料や登壇者映像を確認可能とするために使用する
- ・ 用途: メインスクリーンの補助、遠方席の視認性向上に使用する

## (8) スタンドモニター: 50型 可搬式

- ・ 特長: 500cd/ m<sup>2</sup> の明るさでクリアな映像を表示、
- ・ 用途: 会議での補助ディスプレイとして使用する

## (9) 縦型モニター: 43型 可搬式

- ・ 特長: 500cd/ m<sup>2</sup> の明るさでクリアな映像を表示、縦型設置可能
- ・ 用途: 来場者への情報共有サイネージとして使用する

## (10) モバイルモニター

- ・ 利用者が打合せ卓等でモニター2画面での作業、打合せする際に自由に持ち運びが可能なモニター

# 1. 映像・音響システム

## (11) プロジェクター(天井吊り下げ) 2Fピッチスペース

- ・ 高輝度・高解像度で、大規模イベントでも視認性の高い映像を提供、明るい室内でも鮮明な画像を投影する
- ・ 壁面(シート貼り)に投影すること
- ・ スクリーンサイズは、壁(スクリーン)の広さを最大限活用できるように柔軟に設定できること  
ただし、壁面の前に来館者が立つことも考えられるので、可能な限り壁面とプロジェクターの距離は短くし、投影する映像の遮断が発生しないように考慮すること
- ・ プロジェクターのレンズを超単焦点レンズを使用すること

## その他設備、考慮事項

### (1) 全体BGMスピーカー、アンプ

- ・ 特長: 平常時には館内BGMを配信、緊急時にはBGMを遮断し全館放送を優先すること  
1F、2F天井にスピーカーを配置
- ・ 用途: BGMの配信

## 2. 会議室ICT

本会議室は、小会議室として利用可能であり、規模に応じてパーティションを開放し、大会議室としての運用も可能な設計とする  
小会議室には映像・音響機器を各部屋1台ずつ設置し、対面会議・オンライン会議の両方に対応できる環境を整備する  
また、会議室はパーティションで区切るため完全な音漏れ防止は困難であるが、可能な限り、会議のプライバシー保護と音漏れ防止を強化するものとする

### (1) スタンドモニター:75型 小会議室毎

- ・ 特長:高解像度・広視野角のモニター
- ・ 用途:プレゼンテーション、資料共有、オンライン会議用画面表示
- ・ 入力対応:HDMI / USB-C などの外部入力に対応し、PC・タブレットとの接続が容易であること

### (2) ワイヤレスシステム 小会議室毎

- ・ 特長:簡単にPC・タブレットの画面共有が可能、ケーブル不要で、スムーズなプレゼンテーションを実現

### (3) 360度カメラスピーカーフォン 小会議室毎

- ・ 特長:360度全方位の音声を集音・拡声し、遠隔会議参加者にクリアな音声を提供
- ・ 用途:オンライン会議(Zoom / Teams / Webex など)での音声・映像通話
- ・ カメラ機能:自動で発言者にフォーカスし、オンライン参加者が発言者の表情を確認可能
- ・ スピーカー機能:会議室内の音を均一に拡散し、全参加者が明瞭に聞き取れる

### (4) サウンドマスキングシステム(音漏れ防止・プライバシー保護)

- ・ 特長:会議室内の会話が外部に聞こえにくくなり、機密性を向上
- ・ 自然なホワイトノイズを生成:心地よい環境音を流すことで、不快な沈黙やノイズを軽減
- ・ 柔軟な音量調整:会議の種類や参加人数に応じて、最適なサウンドマスキングレベルに調整可能

※ 各会議室はパーティションで区切るため、完全に音漏れを防止するものではない

## 2. 会議室ICT

### (5) 会議室一体利用

- ・パーティションを開放し、1つの大会議室として利用可能
- ・正面に98インチモニタ1台で投影している映像を、75型モニタにも連動し、統一した映像表示が可能
- ・天井にシーリングマイクを2台設置し、広範囲の音声集音を実現
- ・吊り下げスピーカーを2台設置し、均一な音響を提供
- ・PTZカメラを2台設置し、発言者を的確に捉える
- ・音響システム(アンプ、オーディオデコーダ、エンコーダ)を統合し、高品質な音声伝達を実現
- ・電源制御ユニットで会議設備の電源を一括管理

### 3. 入退館システム

入退館システムでは、利用者(民間事業者等)の入退室の管理、会員管理を行うことだけでなく、コミュニケーター、および庁内職員等に共創を推進する情報の提供、仕組みを整備する  
利用者が施設利用を円滑にできるように入退館の手続きはシンプルな仕組みを導入すること  
なお、今後、実施設計において、施設の運用方針を検討を行い、運用ルールに合わせて利用機能を整理していくこととする

QRコードを利用したシンプルな仕組みでスムーズな入退館を実現。  
ユーザー情報管理や要望・相談コミュニティの活用により、共創パートナーとのマッチング支援や利用者同士の交流を促進。



### 3. 入退館システム

- (1) 利用者(民間事業者等及び県(庁内職員等))の施設利用における入退館の管理、及び会員管理、施設管理(会議室予約、イベント管理等)が行えること
- (2) 施設管理者(コミュニケーター等)が利用者間のマッチングに活用できる利用者の属性情報や対話ログ、要望、相談を管理、把握できること
- (3) 入退館システムは利用者の使い勝手を考慮した直感的なUI/UXを提供し、スマートフォン、タブレット、PCでの利用が可能なこと
- (4) 登録済ユーザ情報は一覧で確認できること、会員種別、最終チェックイン日時などの項目でフィルタリングできること
- (5) コミュニケーションを促進するために会員の要望や相談などを登録、管理できること
- (6) 入館受付においては、QRコードでのチェックイン、チェックアウトが可能であること、スキャンした利用者の情報を端末で管理できること
- (7) 利用者情報、入退館記録情報、契約情報等をCSVデータで出力できること
- (8) イベントの管理機能において、内容や開催日時などの基本的なイベント情報の登録、参加者管理、イベントの集客につなげるイベント告知、アンケート作成ができること
- (9) 来場した利用者に施設内にどのような利用者が入館しているかをモニター等に表示することができること
- (10) 会議室やスペースの予約管理ができること
- (11) 会員への請求情報の作成、請求書の作成が可能であること
- (12) 管理画面にて施設に入場している利用者の情報を参照できること
- (13) 2階西側ゲートと連携し、ゲートの開閉を制御できること

## 4. リアルタイム翻訳ツール

受付、および会議室においてグローバルなお客様、聴覚障がい者とのコミュニケーションをサポートする  
受付での対面での対応、WEB会議でのコミュニケーションにおいてリアルタイム翻訳を実現する

### (1) 受付・会議利用共通

- ・ 20か国語以上の翻訳に対応できること、翻訳言語は選択できること
- ・ 翻訳を行った会話内容データは消去することが可能なこと  
(施設管理者の手動による消去、システムでの自動消去のどちらでも良い)

### (2) 会議利用

- ・ 会議のコミュニケーション内容を会議メモとして出力できること
- ・ 会議内容の要約機能を有していること
- ・ 会議参加者がスムーズに会議に参加できるように招待URL、QRコードの発行が可能なこと
- ・ ディスプレイ等に発話者の方向を表示することが可能なこと

### (2) 受付利用

- ・ 翻訳結果をディスプレイに表示し、円滑なコミュニケーションが可能なこと
- ・ ディスプレイは省スペースで設置できること

# 5. ネットワーク(Wifi)機器

## 1. ネットワーク機器構成

### (1) 機器の構成は以下の通りとする

#### ① PoEスイッチ(4台/12ポート以上)

・スタック構成またはリンクアグリゲーション等により機器の冗長化に対応していること

#### ② アクセスポイント(13台うち2台予備)

・Wi-Fi6および暗号化方式WPA3に対応していること

・周波数は2.4Ghzおよび5Ghzに対応していること

また、これらの周波数を利用したバンドステアリングに対応していること

・上記周波数で同一SSIDが設定可能なこと

#### ③ DHCPサーバ機能により、無線LAN利用ユーザにIPアドレス、サブネットマスク、デフォルトゲートウェイ、

・DNSアドレスを自動で払い出し可能なこと

### (2) 前頁に定める1階および2階のバックヤード倉庫において、それぞれ19インチハーフラックの立架を行い、PoEスイッチ及び他のICT機器をラックマウント出来る状態にすること

### (3) 1階および2階のアクセスポイントは、それぞれのバックヤード倉庫の19インチハーフラックに搭載されたPoEスイッチから配線を行うこと

ただし、PoEスイッチは1台に集約させず、分散して接続を行うこと

### (4) 無線LANアクセスポイントの配置及び設置台数は、無線LANを使用する官民共創スペースでの確実な利用を満たすものとする なお、電波干渉等の影響が発生しないよう考慮すること

### (5) 無線LANアクセスポイントは、原則、天井に設置すること(ただし、落下対策については、県と協議のうえ、十分に実施すること)

### (6) 無線LANアクセスポイントへの電源給電は、PoEスイッチからのPoE給電を原則とする

### (7) 無線LANアクセスポイント間の配線を行うUTPケーブルは、カテゴリ6以上とすること

### (8) 全ての無線LANアクセスポイントについて、各接続周波数を同一SSIDとし、異なるAPを渡り歩いても自動で再接続できること

### (9) 必要に応じ、夜間帯等の停波に対応できること

# 5. ネットワーク(Wifi)機器

## 2. 無線LANのセキュリティ対策

- (1) 無線LANの利用にあたり、セキュリティを高めるため、「WPA3」によるセキュリティ対策を実施すること  
(接続機器が「WPA3」に対応しない場合は、「WPA2」によるセキュリティ対策を実施すること)
- (2) 暗号化キー(接続パスワード)は県の定める規定値以上の強固さを確保すること
- (3) 無線LANのセキュリティに関する脆弱性の情報が発表された場合は、速やかに県へ報告すること

## 3. その他

将来的な無線LANアクセスポイント等の増強に対応できるよう考慮した構成とすること

# ネットワーク機器プロット図

## ネットワーク

ネットワークについては無線通信とする

 無線AP設置場所

### ■無線AP設置台数

1F:5台  
2F:6台

### ■PoEスイッチ(バックヤードに設置)

1F:2台  
2F:2台  
※19インチハーフラックに収容

### ■インターネット回線

1階 x2回線(ステージ用、全体用)  
2階 x2回線(ステージ用、全体用)



1階

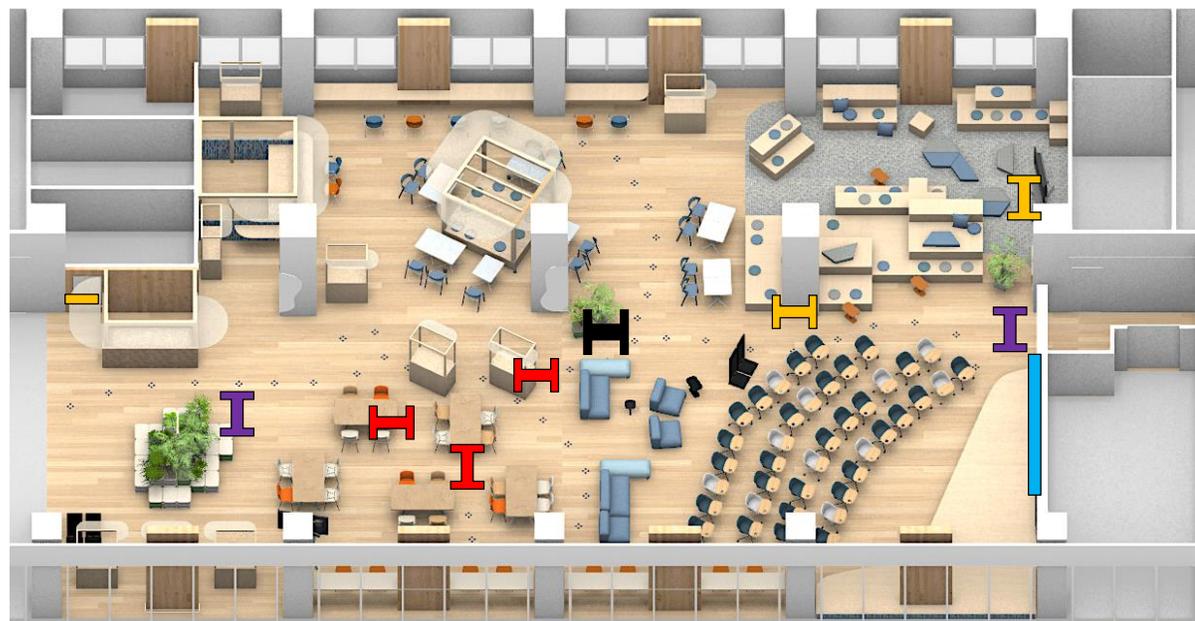


2階

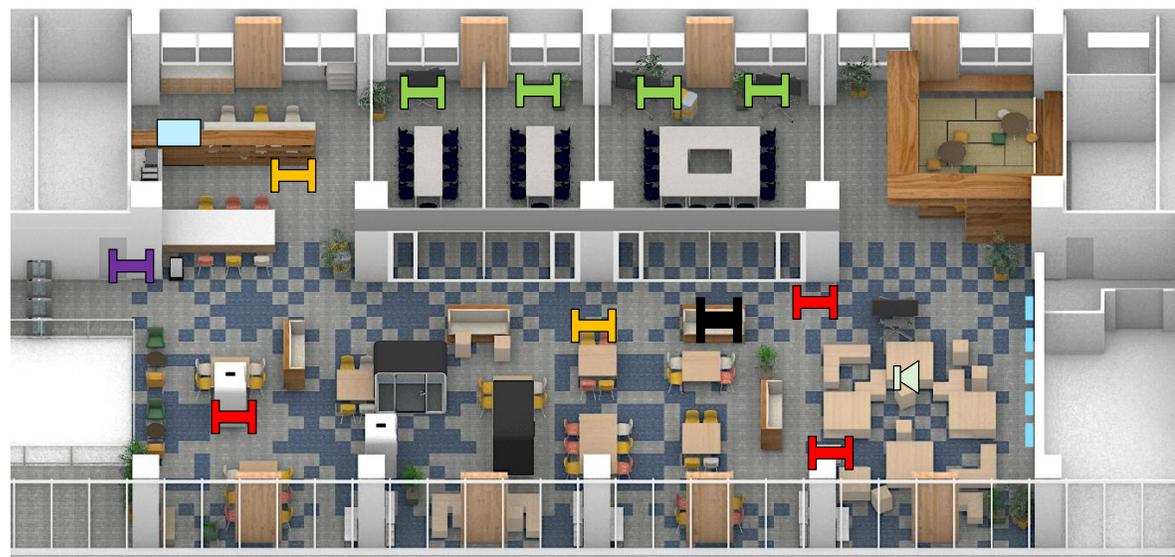
# ICT機器プロット図

## 映像機器等

- LEDビジョン(190型)
- 壁付モニター(65型)
- スタンドモニター(98型、キャスター付)
- スタンドモニター(50型、キャスター付)
- 縦型モニター(43型、キャスター付)
- テレプレゼンスシステム
- スタンドモニター(75型、キャスター付)
- プリンター複合機 ※別途調達予定
- プロジェクター
- 壁プロジェクター投影用シート
- モバイルモニター ※ラック等収納



1階



2階

# ICT機器プロット図

## 音響機器等



メインスピーカA(吊り下げ)



メインスピーカB(吊り下げ)



サブスピーカ(吊り下げ)

WGN

AV機器ワゴン



PTZリモートカメラ(移動式)



PTZリモートカメラ(天井吊り下げ)



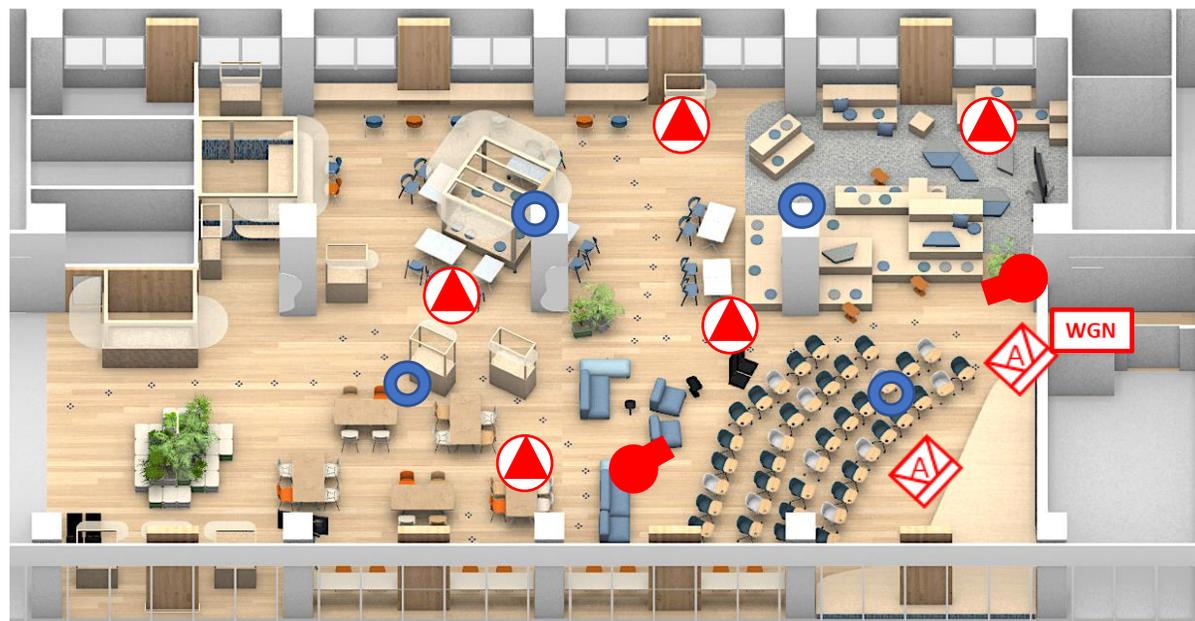
全体BGMスピーカ(天井吊り下げ)



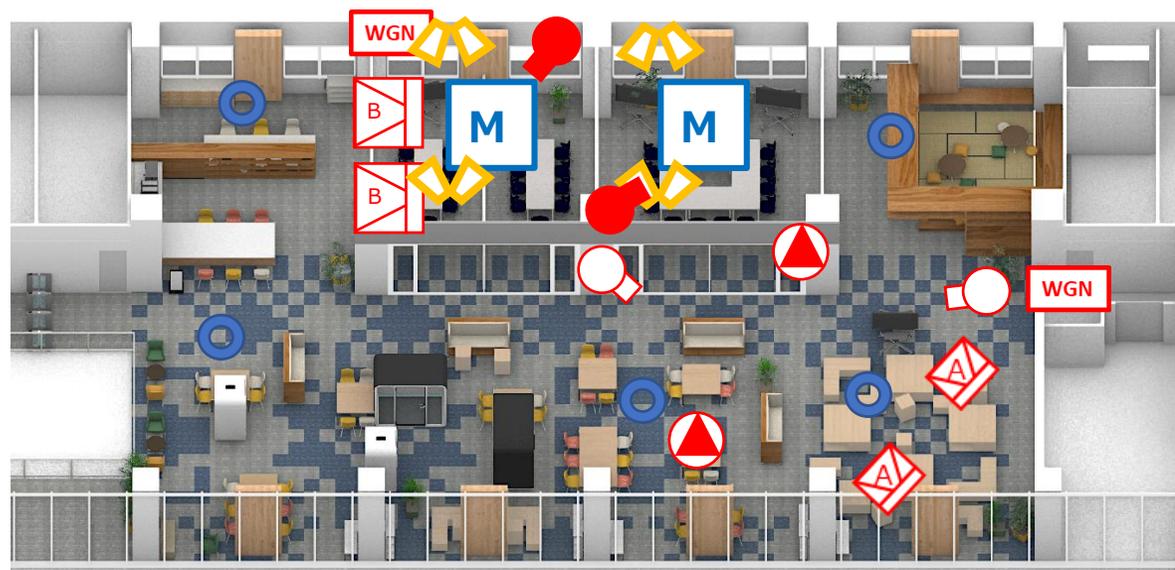
シーリングマイク(天井吊り下げ)



サウンドマスキングスピーカ(天井吊り下げ)



1階



2階

## 2-2.共創を促す仕掛け

---

# 先進ICT(イメージ)

## 1. 1F イベントスペース LEDビジョンの利活用施策を整備する

- (1) イベント(プレゼン)利用が無い時間帯に投影する映像コンテンツの制作  
映像コンテンツと連動するセンサー等を活用しインタラクティブな仕組みとすること  
(例: 人感センサーや音などを利用した来訪者の感性を刺激する映像コンテンツ体験)

## 2. 体験可能な生成AIコンテンツを整備する

- (1) 生成AIの普及/AI活用した共創への新たな価値提供、イノベーション創出支援、及びベンチャー創出支援に供する仕組みとすること
- (2) 体験可能な生成AIコンテンツ整備の提案にあたっては、具体的な内容とすること
- (3) 併せて、上記を活用して共創を活性化させるユースケースを提案すること

## 3. 拠点間帯域保証型通信サービスの導入(以下、通信サービス)

- (1) 共創における実証を促進するため通信サービスを共創拠点および松山市内の愛媛県が指定する施設  
(距離10km程度以内想定)に整備すること
- (2) 回線/帯域/品目は以下のとおりとすること  
回線: 閉域網(専用線)/帯域: 帯域保証型/品目: 10Gbps以上
- (3) 併せて共創を活性化させる四国初のユースケースを提案すること

※自社で通信サービスを提供できない拠点が存在する場合は、その拠点の回線について他社の回線を受託者において借用することで対応すること。